

くすり関連施設基本構想・基本計画

【整備予定地変更に伴う整理】

【整備予定地の変更に伴う変更点】

- ア．整備場所の変更（図書館旧本館跡地→富山駅北アーバンプレイス）
- イ．整備面積の縮小（3,500㎡→2,100㎡）
- ウ．ターゲットの明確化（特に子ども、観光客[インバウンド含]※教育、観光をメインにプログラムを構成する）

I 基本構想

1 くすり関連施設の基本的考え方

（１）基本理念

富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、
薬都の未来を市民とともに創造する

（２）基本方針

基本理念を実現するための４つの基本方針

- ① シティブランディング 「薬都とやま」のブランドイメージを強化する。
- ② シビックプライド 産業の礎を築いた先人の知恵に学び、富山人としての誇りを育む場を創出する。
- ③ 賑わい・回遊性 中心市街地の賑わいと回遊性を生み出す拠点を創出する。
- ④ 産官学民連携 産官学民の連携により、「薬都とやま」の未来像を描く。

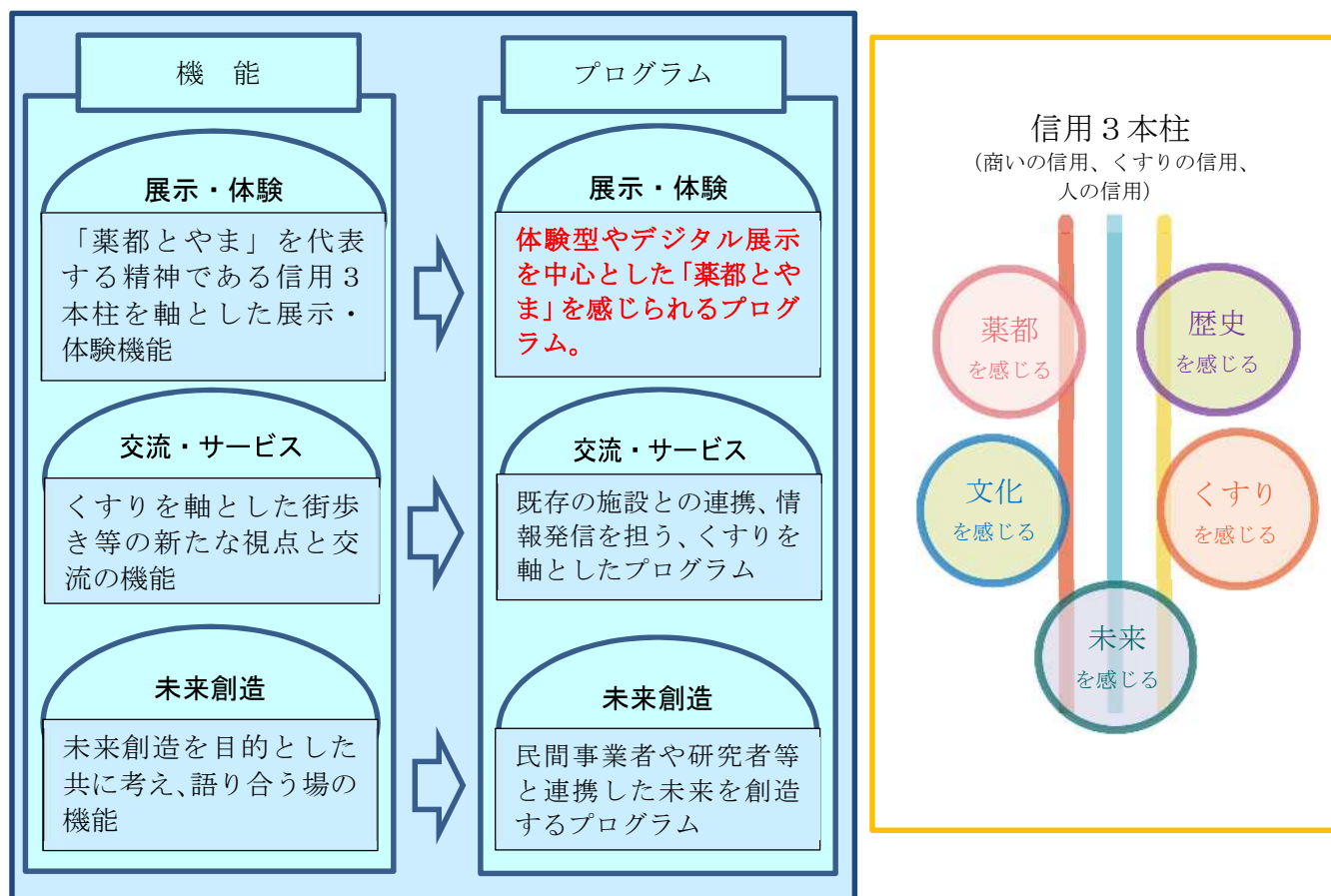
【整備予定地変更に伴う整理①】

駅から至近距離の立地で、電車やバス等を用いた学校単位のアクセスがしやすくなることから、未来を担う子ども達が本施設を社会科見学などで活用し「くすりの富山」を学習することで、ふるさと富山に誇りを持ってもらえる機会が増える（『② シビックプライド』の強化）。

昨年３月の北陸新幹線の敦賀延伸による北陸への関心の高まりや、コロナ禍を経てインバウンド需要が再度高まりを見せる等、観光面での外的環境が大きく変容していることから、従来の利用者イメージ（くすり関連施設基本構想・基本計画 p.22）の中でも、観光客をより重視することとした。これによって、駅周辺の賑わい創出に寄与する施設として、中心市街地への波及効果や回遊性の更なる向上が期待される（『③ 賑わい・回遊性』の強化）。

2 くすり関連施設に必要な要素

くすり関連施設の3つの機能・プログラム



II 基本計画

1 基本的考え方

基本理念に基づき、300年以上続く富山のくすりの歴史と文化、大切にされてきた精神を継承しつつ、「信用3本柱」が優れた理念であることを踏まえ、これらを軸として薬都とやまの未来像を考え、共に創造することを大切にします。

2 事業計画

基本構想で定めた3つの機能・プログラムを具体的に実現するため、8つの事業について、実施の可能性を検討します。

(1) 展示・体験

事業	概要
展示事業	体験型展示やデジタル展示を中心に展開し、 楽しみながら薬都を体感できる展示。催事事業や、情報発信事業・産官学民連携事業を考慮した配置 とする。
解説事業	関係機関との連携による解説員や、ICTを活用した解説を実施。

イメージ（例）



【整備予定地変更に伴う整理②】

- ・一方向の見てもらう実物展示は縮小し、時代に合ったVRやARといったデジタル技術も用いた体験型展示に特化する。
- ・主なターゲットとする子どもや観光客に興味や関心を持ってもらうため、インターネットやSNS等で得られる情報のみならず本施設でしか味わえない体験を提供し、普段は見聞きできない情報にも触れてもらい、集客に繋げる。

(2) 交流・サービス

事業	概要
薬都案内サービス事業	県内のくすり関連施設と連携し、サテライトスポットとしての機能を備える。施設内に留まらず、富山駅構内での宣伝も行う。
催事事業	施設内の シアターや多目的ルームなどを活用 し、産業界や高校、大学等とも協力しながら、「体験」を重視した 催事事業（イベント等）を積極的に展開 。
飲食・物販事業	施設内外の「富山やくぜん」認定店とも連携 し、施設訪問後に認定店へ誘導する仕掛けを構築する。 物販は 特色ある商品（ここでしか買えないお土産、オリジナル商品、アクセサリ、カプセルトイなど）の販売を展開 。
資料収集・活用事業	デジタルアーカイブ事業を継続し、資料の情報収集を行う。

イメージ（例）



薬都案内サービス



ワークショップ等のイベント



施設内物販コーナー

【整備予定地変更に伴う整理③】

- ・市内に点在する各くすりに関連する施設や大学、薬業関連企業へと誘導するハブ施設として「くすりのまち富山」の案内を充実させ、全体の盛り上げに繋げる。
- ・既設のシアターが活用できることから、ネット中継や映像を使った事業展開が可能。
- ・観光客に喜ばれる魅力的なオリジナルグッズなどお土産の物販事業に期待が持たれる。
- ・飲食は施設内や近隣に多くある店舗、富山やくぜん認定店を活用することで、市内を回遊しながら「富山の食」を知ってもらう機会を創出する。

(3) 未来創造

事業	概要
情報発信事業	「富山のくすり」の歴史に加え、現在の薬業業界のトピックス（和漢薬研究の取り組みや新薬の研究など）を発信する。
産官学民連携事業	イベント（催事事業）等での産官学民連携を重視 する。施設外活動や、学生と企業との交流の場を設けるなど、産官学民が連携した横展開を行う。
イメージ（例）  VRで工場見学  和漢薬の原料（生薬）の体験コーナー	

【整備予定地変更に伴う整理④】

- ・子どもをはじめ広い世代に、何度も来館したくなるようなプログラム内容とし、持続的に運営を行えるよう産官学民が連携して事業展開を行う。

3 施設計画

(1) 施設が有する機能

3つの主要機能「展示・体験機能」、「交流・サービス機能」、「未来創造機能」に加え、管理運営上必要な「維持管理機能」

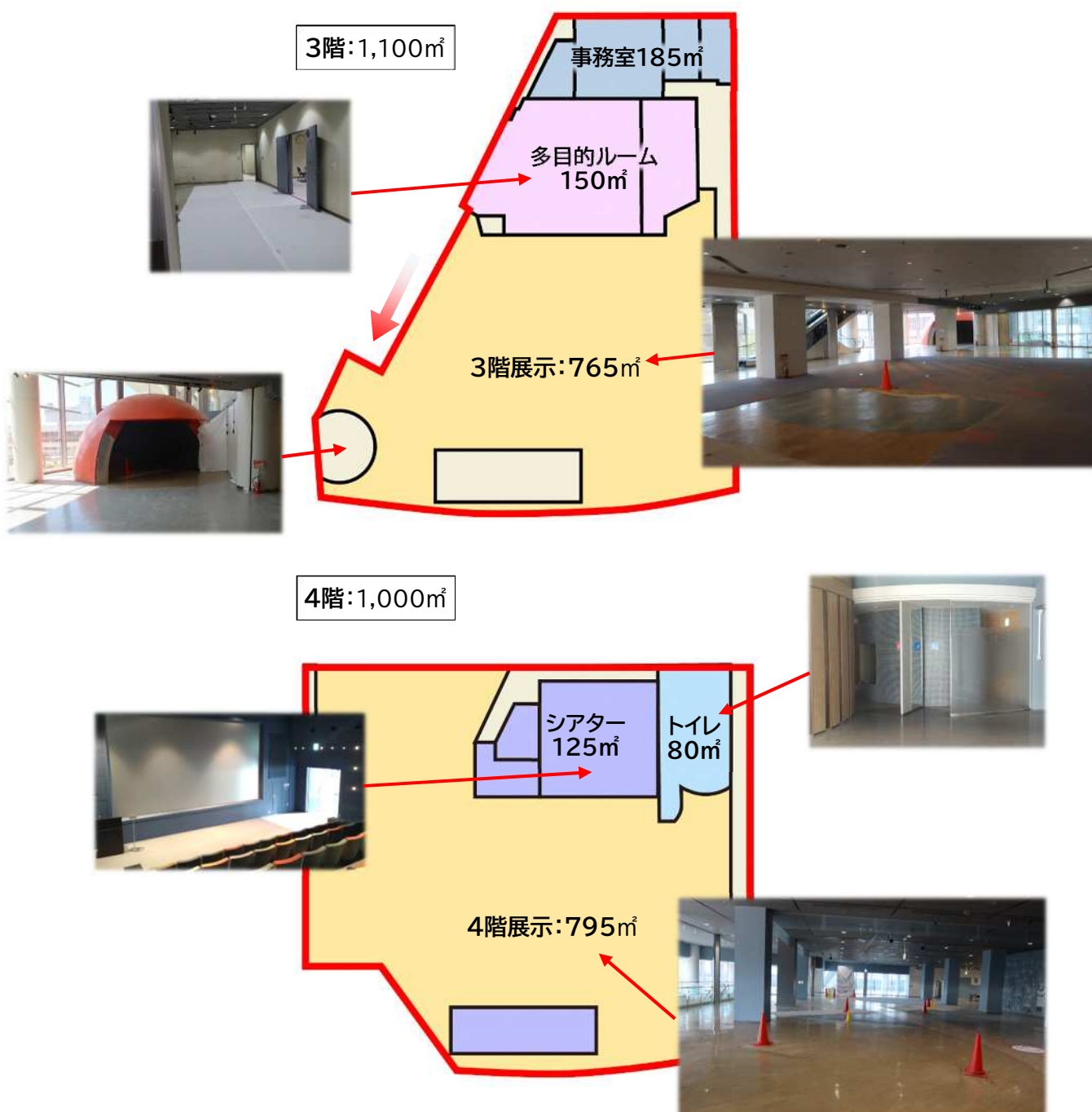
(2) 施設規模（想定）

場 所 アーバンプレイス 3、4階

延床面積 約 2,300 m²（3階 約 1,100 m²、4階 約 1,200 m²）

有効スペース 約 2,100 m²（3階 約 1,100 m²、4階 約 1,000 m²）

<諸室イメージ>



4 展示計画

・展示関係施設への誘導機能

展示機能を補完するため、本施設には交流・サービス機能の一環として、売薬資料館や金岡邸、加えて、**富山県内の大学や薬業関連企業へと誘導するハブ施設としての役割も期待**され、薬都への理解を深めるとともに、次も訪れたいと思ってもらえるような仕組みや仕掛けを構築します。

【整備予定地変更に伴う整理⑤】

展示規模の縮小に対応するため、多くの資料を展示している売薬資料館等の他施設や大学、薬業関連企業とも連携した「くすり関連施設」の事業展開を進めることで回遊性を持たせ、「くすりのまち富山」全体の盛り上げに繋げる。

なお、従来の展示コンセプト『「信用3本柱」を軸として、薬都とやまの過去・現在を知り、未来につなげる展示』は継承するが、建物の特性上、展示資料の収集（デジタルアーカイブ事業は除く）や保存管理に関しては、学芸員が在籍する売薬資料館等が専門的に担うこととする。

5 管理運営計画

方 針	取り組み
市民の参画を促し、市民とともに創造する管理運営	市民と協働するしくみづくり、利用者サービスの向上、広報の充実、人材育成
連携強化のための体制づくり	多様な主体との連携、専門家等との連携、連携体制の構築
未来創造事業を実現する管理運営	専門家の効果的な活用、産官学民の特色を活かした運営、情報収集・提供・発信